

(1) 韓国における社会福祉教育体系の現状報告

福岡医療福祉大学 竹並 正宏

【要 旨】

韓国の社会福祉教育体系の現況を調べ、社会福祉職の専門性と関連し、大学で社会福祉教育が目指すべき方向・社会福祉教育の現場との連携性・教授陣の構成及び細部専攻区分・教科目の構成・学習内容などに関連した問題・学部と大学院教育の差別性などを研究。

本研究では韓国の4年制大学の社会福祉学科の教授全体を対象に郵便でアンケート調査を行った。韓国の40の大学の約200人の教授にアンケートを2007年9月に郵送し、そのうち70枚を回収。回収率は34.7%。実務者を対象にした調査は、韓国全国の実務者のうち1000人を選び、韓国社会福祉協会の名簿を収集の枠として用い、4年生の大学を卒業した学士以上の学位を持っている社会福祉専門要員・社会福祉サービス機関・社会福祉収容施設の従業員のうち任意に100人を選んだ。実務者1000人を対象に郵便でアンケート調査を実施した。

韓国の大学の社会福祉教育が理論中心で行われ、

現場と十分に連携されていないこと、教授陣が不足していること、福祉環境の変化に敏感に対処できないことなどは現在の社会福祉教育体系のおもな問題として指摘されている。カリキュラム内容や組織は主にアメリカで教育を受けた教授陣によって形づくられ、大学院の学位授与の手続きは履修要件、課程修了試験、外国語必修科目、学位論文、口頭試験等アメリカと似ている。学部段階では取得のため約140単位修める必要があり、約32%は一般教養を履修。

韓国の大学では精神保健領域では、まだ精神保健福祉士の国家資格にあたるものがなく、社会福祉士が行っている。精神障害者のプログラムや家族支援サービスを開発する必要があり、さらに学校環境の内外で生じる暴力や家出、ネット中毒、薬物等の問題が社会問題として台頭している。学校、家庭、地域を連携するスクールソーシャルワーカーの必要性が認識され、今後社会福祉の教育体系はますます多様化していく中で社会福祉の実践対象と領域を敏感に把握し、積極的に対処する必要性がある。